



「2026年、神様仕立ての祝福を」

黒田 朔

「正月は 冥土の旅の一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」と一休さんは詠んだそうです。私たちも又、「旧年中はお世話になりました」と挨拶を交わすように、時間の流れの中で繰り返される新年は旧年になり、人生は、やがて、死に至る旅のようなものかも知れません。

今年も大勢の日本人が願い事を叶えてもらうために初もうでに出かけました。しかし、その願い事が「自分発」のものである限り、「自分」の枠を出ることが出来ず、その内、忘れ、消えてゆくのが落ちです。しかし、「神様発」の約束を聖書は語ります。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(Ⅱコリント 5:17)

これは、「キリストに従うときに約束される新しさ」は「新品」ではなく「別の品」の新しさです。つまり、毎日の生活において、又、事を選択において「キリストに従う」なら、あなたの願いに沿う新年ではなく、キリスト仕立ての2026年となるのです。

つまり、私達が日々の歩みでキリストに従い、直面する出来事の中で、キリストが喜ばれると思う道を選ぶなら、キリストが今まで自分の願いの枠を破る生活へと私たちを導いてくれるからです。2026年を「自分発」の一年とするか、「神様発」の一年とするか、それは「あなた」が決めることです。果たして、新年、2026年にどんな新しい歩みが待ち受けているかを楽しみ、迎えたいものです。

主の 2026 年、あなたとあなたのご一家に神様の恵みが溢れますようにお祈りします。

※ 写真はガリラヤ湖に昇る朝日